

第2回チカダ賞記念
国際シンポジウム

生命の尊厳を
表現
すること

2016
11.18(金) 10:30-17:00

学校法人城西大学 東京紀尾井町キャンパス1号棟ホール
東京都千代田区紀尾井町3-26

入場無料(要事前申込)

日本語・英語 同時通訳有

主 催：学校法人城西大学国際学術文化振興センター
共 催：日本スウェーデン協会、思潮社
後 援：紀伊國屋書店、株式会社ユアテック、The Japan Times
協 力：駐日スウェーデン王国大使館

■お申込み・お問い合わせ先 学校法人城西大学国際学術文化振興センター
TEL.03-6238-1200 FAX.03-6238-1299
E-mail jicpas21@jiu.ac.jp



東京メトロ有楽町線 東京メトロ銀座線 東京メトロ南北線
東京メトロ半蔵門線 東京メトロ丸ノ内線 JR線

●東京メトロ有楽町線 麹町駅1番出口より徒歩3分
●東京メトロ半蔵門線 半蔵門駅1番出口より徒歩7分
●東京メトロ丸ノ内線・銀座線 赤坂見附駅D出口より徒歩8分
●東京メトロ南北線 永田町駅9a番出口より徒歩5分
●JR中央線・総武線 四ツ谷駅より徒歩10分

生命の尊厳を 表現 するということ

第2回 チカダ賞国際シンポジウムに寄せて

President Cicada Prize ラーシュ・ヴァリエ

現代世界において、戦争とテロ事件が多く、ありえないほどの無惨な戦いや行動もほぼ毎日続いています。そのような時代において、現代詩に意味があるのでしょうか。

60年前にスウェーデンのノーベル文学賞受賞ハリー・マーティンソン氏(1904-1978)は、叙事詩「アニアーラ」を出版しました。これは、第二次世界大戦の残酷な記憶の中、人々が帰還不能の宇宙船の中で、行き着く先がわからない場所へ行かなければならない状態に陥ったとき、何をするか、何を考えるかということを詩の形で書き表したものです。

この作品において、マーティンソン氏は、このような残酷と悲劇の中にあっても人が生きるに際しての「生命の尊厳」について繰り返し言及し、読むものにこの問題を考えさせているように思えます。

そして、2004年、マーティンソン氏の生誕100年周年をきっかけとして、スウェーデンにおいてチカダ文学賞が設立され、マーティンソン氏からインスパイアされ、“生命の尊厳を表現している”東アジアの詩人を選考し、スウェーデン王国チカダ賞選考委員会より毎年1名の優れた詩人にこの賞を差し上げています。

チカダ賞は、国際的な詩文学の賞として定着し、2014年に第1回の国際シンポジウムが学校法人城西大学にて開催され、日本、韓国、中国の第一線で活躍される詩人たちが一同に会し、充実したシンポジウムとなりました。

今回は、2014年以降に受賞された、北島(バイダオ)氏、Y Nhi(イー・ニー)氏、また、ビデオメッセージにて、金子兜太氏、楊牧氏の参加を得て、さらに深く広がりを持つシンポジウムになることを祈念しております。

登壇者 (登壇順・敬称略)

ラーシュ・ヴァリエ (Lars Vargö) (元駐日スウェーデン大使・俳人)
北 島 (Bei Dao) (第7回チカダ賞受賞者・詩人)
谷川 俊太郎 (詩人)
文 貞姫 (Moon Chung-hee) (第5回チカダ賞受賞者・詩人)
高橋 睦郎 (詩人)
イー・ニー (Y Nhi) (第8回チカダ賞受賞者・詩人)
水田 宗子 (第6回チカダ賞受賞者・詩人)
吉増 剛造 (詩人)

インタビュー映像紹介

金子 兜太 (第2回チカダ賞受賞者・詩人)
楊 牧 (第9回チカダ賞受賞者・詩人)

スケジュール

(敬称略)

10:30~10:35

マグヌス・ローバック
スウェーデン大使ご挨拶

10:40~10:55

「チカダ賞について」
ラーシュ・ヴァリエ

11:00~11:15

「チカダ賞へのメッセージ(ビデオ映像)」
金子 兜太
楊 牧

11:20~12:20

対談と朗読:
「生命の尊厳を表現するということ」
北 島
谷川 俊太郎
※モデレータ 田 原

12:20~13:30

ランチ

13:30~14:30

対談と朗読:
「ジェンダーといのちの尊厳」
文 貞姫
高橋 睦郎
※モデレータ ジョーダン・スミス

14:45~16:20

チカダ賞受賞者による座談会:
「詩と現実」
文 貞姫
水田 宗子
北 島
イー・ニー
※モデレータ ラーシュ・ヴァリエ

16:30~17:00

朗 読
吉増 剛造
イー・ニー
ラーシュ・ヴァリエ
水田 宗子

17:00~18:00

レセプション